

おい自然園

ヤマトシジミ

No.143

もつとも身近なチョウの一つで、雑草とされるカタバミを食べるため、人家の周りでも良く見られます。成虫は春先から晩秋まで、年に数回出現します。雌雄とも翅の裏面は灰色みをおびた白色に黒色の小さな斑紋が多数あり。翅の表面は雄では明るい水色ですが、雌では黒っぽく、せいぜい狭く青色になる程度です。地味であり注目をされませんが、美しい昆虫です。幼虫はカタバミについており、他のシジミチョウと同じく、わらじ型のいもむしです。

なお、シジミチョウの名の由来は翅の大きさや形が貝のシジミに似ているためと言われており、「ヤマトシジミ」という和名は味噌汁に入れて食べるシジミの仲間にもあります。



ヤマトシジミの雄 ▶

おい自然園園長 一寸木 肇

【おい自然園 HP】



▲大井町の動物や自然観察会、虫、石、果などを掲載しています。

【自然NOWへの投稿】



▲町内の身近な自然情報をお待ちしています。
※撮影は横位置で